

## 大学の放射線管理部門による社会貢献

Contribution to Society by Radiation Protection Supervisor of University

安岡由美

Yumi YASUOKA

神戸薬科大学<sup>1)</sup>

Kobe Pharmaceutical Univ.

### 1. はじめに

本学は薬学部のみ単科大学の放射線施設のため、トレーサー実験が主流である。そのため、現場の放射線管理において、実質的な放射性同意元素による危険性は低い。「文部科学省の立入検査対応」と「汚染・故障・緊急時対応」がメインとなっている。

そして、他大学の放射線管理部門では、小中高校生向けやその教員向けの実習など、地域への貢献を積極的に行っているところも多い。そこで、本学においては、放射性物質に関する特殊災害事案が発生した場合の協力体制について、神戸市消防局と2008年8月に覚書を交わした。

#### ◆覚書（抜粋）◆

- (1) 放射性物質に関係していると疑われる物質の漏洩、火災、その他の特殊災害が発生した場合で、神戸市消防局のみでは対応困難な場合に、神戸薬科大学の専門家が現場出動などにより、災害対応への助言や放射線測定器の提供・放射性物質の分析を行う。
- (2) 平常時においては、放射性物質に関する知識向上のため、研修教育等の協力を行う。

### 2. 訓練

消防職員の放射性物質に関する知識や技術の向上を目的とし、2005年から本学の放射線施設で放射線実習を実施しており、現在までに延べ91名が受講した。

また、2009年8月26日に、この覚書にもとづいた放射線災害対応訓練を実施した。訓練を通じて互いの連携協力体制を確認、検証することで、よりいっそうの災害対応能力の強化を目指した。訓練は、「放射性物質を搬送中の車両が高速道路上で単独事故を起こし、助手席の同乗者が車内で意識を失っている。さらに、車内の荷室に置かれていた放射性物質の入った容器が、事故の衝撃により車外に投げ出されている。そこで、東灘消防署の方面特殊災害隊、指揮隊、救助隊、救急隊および本部指揮隊、本部特殊災害隊が、本学主任者と連携協力し、警戒区域の設定、放射性物質の防災処置、要救助者の救助および汚染検査等を行う。」という想定で実施した。



参考資料：神戸市ホームページ：神戸薬科大学と神戸市消防局が協力！放射線災害時の連携訓練を実施  
(2009/8/18 記者発表資料)

連絡先：yasuoka@kobepharma-u.ac.jp